ベラルーシ公開情報取りまとめ

（10月29日～11月4日）

2019年11月6日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領は、2020 年の経済指標目標を定める大統領令第 401 号、財政の基本方針を確定する大統領令第 402 号に署名(11/1)

●スノプコフ大統領府副長官、クルトイ経済大臣、エルモロヴィッチ財務大臣は中国を訪問し、ヘー・ベェム中国人民政治協商会議副主席、鐘山中国商務部長、デン・ボツィン国際発展協力研究所長と会談（10/31～11/2）

●クラフチェンコ外務次官は、米ワシントンに訪問し、デストロ国務次官補（民主化、人権、労働問題担当）と会談（11/1）

大統領動静

●2020 年の経済指標目標を定める大統領令第 401 号、財政の基本方針を確定する大統領令第 402 号に署名(11/1)

同大統領令により、以下の指標が目標として制定された。

・GDP成長率：対前年比 102.8%

・輸出額：対前年比 103.6%

・国民総所得：対前年比 102.4%

・貿易黒字額：GDPに対し 1%程度

・インフレ率：5%以内

（11/1 大統領府公式サイト）

●アラブ首長国連邦を訪問（11/1）

9 月にベラルーシを公式訪問したムハンマド・ビン・ザーイド・アール・ナヒヤーン・アブダビ皇太子兼連邦軍副最高司令官と会談。両者は、二国間貿易の拡大、多分野における投資協力の発展について協議をした。来年、国際展示会EXPO2020 がドバイで開催されることを背景として、アラブ首長国連邦がベラルーシの製品やサービスの他市場への進出の足がかりとなり得ることを議論した。

（11/1 大統領公式ホームページ）

●カラニク保健大臣とともに放射線医療科学実践センターの視察（10/30）

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・児童死亡率を引き下げ、母親の健康に配慮する必要がある。特に、母親の死は非常事態であり、ベラルーシであってはならない。

・病院に最新医療機器の設置をすることが重要である。海外の病院と同様の水準にする必要がある。しかし、翌年機器が使われずに突っ立っている状態であってはならない。

・医者の国外流出について、特段危惧はない。心血管疾患分野を中心としてイスラエルや米国から医者が流入している。

・2025年までに医師の給与を2倍にする目標である。とはいえ、最新機器の導入の方が重要である。

・病院における行列問題の究明を求める。2～3ヶ月もの間、順番を待つ必要があるが、果たして透明性はあるのか。同センター訪問前に、医師や患者と話し状況を探ったが、行列問題に関し透明性がないという批判があった。

（10/30 大統領府公式サイト）

外交

●ルマス首相、ウズベキスタンを訪問し、アブドゥッラー・アリポフ・ウズベキスタン首相と会談(11/1)

ルマス首相の発言要旨は以下の通り。

・両国間貿易高は 5 億ドルを超えうる。貿易高は、2019 年の 9 ヶ月間で昨年の数値を超えた。

・この事実に注目を弱めてはならない。なぜならば、両国大統領で同数字の 5 億ドル達成を目標としたからだ。

・2018 年に署名した合意のうち、既に 3 分の 1 が達成

済みである。8 月のミルジョエフ・ウズベキスタン大統領のベラルーシへの訪問における新たな要請を考慮し、完遂させる必要がある。
・特にベラルーシのIT産業特区ハイテクパークとの協力発展については既に行われている。

アリポフ首相の発言要旨は以下の通り。
・大統領の相互訪問の後、我々の関係はさらに発展していくと確信した。
・特にウズベキスタンにとって興味深いのは、ベラルーシのIT産業である。我々はベラルーシに学びたい。
（11/1 ベラパン通信）

●クラフチェンコ外務次官、米ワシントンを訪問し、デストロ国務次官補（民主化、人権、労働問題担当）と会談。（11/1）
両者は人権問題に関する両国の対話を実施。またクラフチェンコ外務次官は、リーカー国務長官補佐（欧州・ユーラシア問題担当）、キッティング米国下院外交委員会ヨーロッパ・ユーラシア小委員会委員長とも二国間協力や地域情勢に関する会談を行った。
（11/1 ベラパン通信）

●ダプキュナス・ベラルーシ外務次官、10 月経済フォーラム（KEF）に参加し、ポポフスキ欧州委員近隣政策・EU拡大担当と会談（10/31）
両者は、ベラルーシ・EU間の査証制度簡素化、再入国に関わる合意書の署名について協議を行った。ベラルーシ外務省は、同合意により、ベラルーシと欧州諸国の多方面に亘る繋がりの更なる拡大を助長する。と公表した。
（10/31 ベラパン通信）

●三者コンタクトグループ、定期会合の開催（10/29）
ベラルーシ外務省は、同会合が大統領ホテルにてマスコミには非公開の形で実施されたと報道した。
（10/29 ベラパン通信）

経済

【対外経済】
●スノプコフ大統領府副長官、クルトイ経済大臣、エルモロヴィッチ財務大臣、中国を訪問し、ヘー・ベェム中国人民政治協商会議副主席、鐘山中国商務部長、デン・ボツィン国際発展協力研究所長と会談（10/31～11/2）
ヘー・ベェム氏との会談において、中国の伝統医療や、ベラルーシ中国共同産業特区「巨石」への中国の医療分野の企業入居可能性に関し協議を行った。
鐘山氏との会談において、「巨石」の更なる発展やベラルーシ製品の中国への輸出拡大、その他重要な共同行事の開催に関して協議を行った。同会談において、2019 年ベラルーシから中国への輸出が昨年比183%超となること、「巨石」における一帯一路国際フォーラムを成功裏に終えたこと等も触れられた。
デン・ボツィン氏との会談において、中国からの技術経済無償援助を通じた既存案件の進捗に関し協議が行われた。
また、ベラルーシ代表団は天津経済技術開発区「TEDA」を訪問し、一帯一路の枠組みにおけるベラルーシと天津の相互協力、投資・経済、人道分野における協力につき協議が行われた。
（11/3 ベルタ通信）

●ベラルーシ・中国共同自動車製造会社「ベルジー」は、両国共同産業特区「巨石」にて、ユーロ 6 基準の乗用車製造工場の建設を計画していると発表。（11/1）
スビデルスキー産業省第一副大臣兼ベルジー社長代理は、「GeelyやSinomach等、他の『巨石』入居企業と本工場設立に向け交渉を続けている。部品の自国調達率は現在 50%である。エンジン、座席、蓄電器、タイヤ等は自国製品である。これ以上急激に増えることはないだろうが、ガラスや暖房、防音器等の部品の現地製造・調達も検討している。かつて乗用車は輸入のみであったが、現在はロシアへ輸出している。輸出額は 9 ヶ月で 1 億ドルである。2020 年以降、輸出仕向先を増やすため、カザフスタン、アルメニア、タジキスタン、リトアニア、ポーランド、ウクライナと協

議している。」と発表。

（11/1 ベラパン通信）

【国内経済】

●ベラルーシ 2019 年 1～9 月の輸出額、昨年同期比 1.2%減。

（10/31 ベラパン通信）

軍事・治安

●ラフコフ防衛大臣、独立国家共同体（CIS）防衛大臣閣僚会談に参加(10/31)

2025 年までのCIS軍事協力や 2020 年に控える各種行事（大祖国戦争勝利 75 周年記念式典等）に関する協議を行った。

（10/31 ベラパン通信）

●国家保安委員会周辺で「記憶の鎖」による無許可デモの実施。

同デモは、スターリン粛清による犠牲者の追悼のため、ベラルーシ文化の活動家 100 名以上が銃殺された日に毎年行われている。今回は約 30 名が参加し、数名が投獄された。デモの様子を多くの私服治安機関職員が監視し、ビデオ撮影を行っていた。

（10/29 ベラパン通信）

●直近 3 年で、ベラルーシ国内高等教育機関における中国人留学生数が約 4 倍に増加。

カルペンコ・ベラルーシ教育大臣は、「現在中国人留学生数は約 4 千名であるが、昨年は 3 千名であった。この数字はさらに伸びていく見込みである。ベラルーシと中国の関係は、幅広い分野の教育と学問に拡がっている。中国の宇宙企業がベラルーシの大学生による衛星発射を支援した他、ベラルーシ技術大学は露中英辞典作成を支援した。中国企業Weichai社はベラルーシ・中国産業特区「巨石」で内燃エンジンを製造し、ミンスク国立自動機械専門大学の研究施設設立に投資している。さらにベラルーシと中国の大学は約 350 件もの協力覚書を締結している。」と発表した。

（10/29 ベラパン通信）

（了）